

ユネスコエコパークに「みなかみ」(群馬県、新潟県)が登録決定

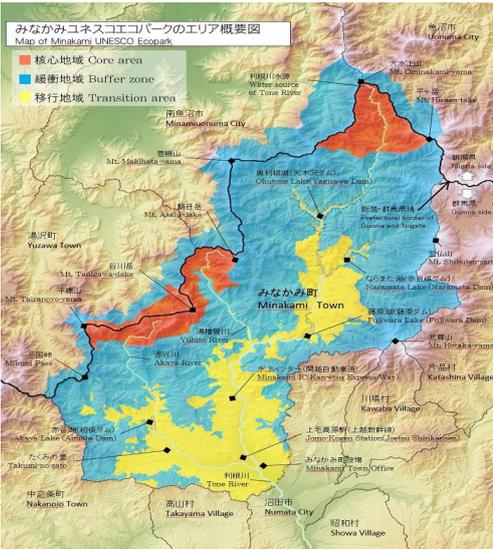
計画保全部 計画課

平成29年6月12日から15日まで、フランスで開催された「第29回人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会」において、「みなかみ」(群馬県、新潟県)を生物圏保存地域(英名: Biosphere Reserves (BR)、国内呼称「ユネスコエコパーク」)に登録することが決定されました。

ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークとは、ユネスコの自然科学セクターで実施される「ユネスコ人間と生物圏(MAB: Man and the Biosphere)計画」における一事業として実施されているものです。世界自然遺産が顕著な普遍的価値を有する自然地域を保護・保全することを目的とするのに対し、ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としており、保護・保全だけではなく自然と人間社会の共生に重点が置かれています。

ユネスコエコパークは、「保存機能(生物多様性の保全)」、「学術的研究支援」及び「経済と社会の発



展」の3つの機能を有し、個々の機能は独立のものではなく、相互に強化する関係とされています。
また、この3つの機能を果たすため、①厳格に保護し長期的に保全する「核心地域」、②核心地域のバッファーとなり、教育、研修、エコツーリズムに活用する「緩衝地域」、③居住区であり、地域社会や経済発展が図られる「移行地域」を設定します。
この取組は、1976年(昭和51年)に始まり、2017年(平成29年)3月現在の登録総数は、120

カ国、669地域となっています。

我が国では、「志賀高原」(長野県、群馬県)、「白山」(富山県、石川県、福井県、岐阜県)、「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」(奈良県、三重県)、「屋久島・口永良部島」(鹿児島県)、「綾」(宮崎県)、「只見」(福島県)、「南アルプス」(山梨県、長野県、静岡県)の7か所が登録されており、今回、「みなかみ」と「祖母・傾・大崩(そぼ・



みなかみユネスコエコパーク登録決定の瞬間

かたむき・おおくえ)」(大分県、宮崎県)が追加されて、9か所となりました。
我が国では、ユネスコエコパークの核心地域や緩衝地域は、国立・国定公園や国有林の保護林等として保全されています。

みなかみユネスコエコパークの特徴

群馬県の最北端に位置する、みなかみ町全域を中心に、隣接する新潟県の魚沼市、南魚沼市及び湯沢町の一部で構成され、総面積は約九万1千haです。



他国代表者から祝福を受ける岸みなかみ町長

利根川の最上流部に位置し、東京都圏の人口の約8割にあたる三千万人の生命とくらしを支えています。

核心地域と緩衝地域が広がる群馬県と新潟県の境界の山稜一帯は、日本の脊梁山脈となっており、太平洋側と日本海側の気候条件の移行帯となっています。冬季の大量の積雪の影響などにより、一ノ倉沢に代表される急峻な岩壁や露岩地、雪食凹地など特徴的な地形が形成されています。

移行地域には、里地・里山の農村景観が広がり、豊かな自然の恵みに支え



みなかみ町全景

られた農村文化が今なお残っています。また、豊富に湧出する温泉や雄大な自然を活かした観光産業が盛んであり、人と自然が共生していくため、豊かな自然を「まもる・いかす・ひろめる」取組が進められています。

「みなかみ」の国有林

みなかみユネスコエコパークの核心地域及び緩衝地域の約7割は、関東森林管理局が管理する国有林です。関東森林管理局では、「利根川源流部・燧ヶ岳（ひうちがたけ）周辺森林生態系保護地域」や「緑の回廊三国（みくに）」



谷川岳一ノ倉

線」等を設定し、森林を中心とする生態系を保全するとともに、水源涵養機能をはじめとする森林の多面的機能を高めるための保全管理を行っています。また、みなかみ町に所在する国有林約1万haの「赤谷の森」を舞台に、関東森林管理局赤谷プロジェクト地域協議会、（公財）日本自然保護協会の三者で協働し、「生物多様性の復元」と「持続可能な地域づくり」を旨とする「赤谷プロジェクト」に取り組んでいます。「赤谷の森」はユネスコエコパークの「核心地域」と「緩衝地域」に位置づけられています。



大水上山（利根川源流）

きのこ「特集」

夏に発生するきのこについて①

ナラタケモドキ（食用）
（キシメジ科 ナラタケ属）

夏八月中旬から九月中旬に広葉樹の切株や立ち枯れ木に発生します。

カサは5cmから8cmで黄土色の表面に黒い粒点があり、キノコは一箇所の根元から複数発生する束生です。

ヒダは白色で古くなると黒くなり、ヒダが柄に沿って垂れ下がる垂生です。柄は4センチから7センチで白色です。

食用ですが、古くなると柄は固くなり消化不良の中毒を起す場合がありますので注意が必要です。



『野鳥の会ふくしま白河支部』と

フィールドワークを実施

福島森林管理署 白河支署

当支署では、森林整備を進めて行く中で、平成10年頃に広葉樹林にクマタカの営巣木を発見しました。

猛禽類専門家の指導により、繁殖時期の作業に配慮しつつ、長年にわたり営巣木の観察を継続しながら森林整備を進めてきました。

今後の事業として、営巣木付近での林業専用道作設と、間伐等を計画していることから、平成28年度に「関東森



繁殖したクマタカ幼鳥 (H28.7)

林管理局希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会」において審議いただき、事業の実施に当たっては、「林業専用道の開設現場は営巣木から1km以上の距離があることや尾根越えであることから工事を実施して良いが、モニタリングを継続しクマタカの行動等に異常が確認された場合は作業を中断し対策を検討し、地元の猛禽類専門家に相談すること。」との意見をいただきました。

この検討委員会の意見を踏まえ、「日本野鳥の会ふくしま白河支部」にモニタリング手法を相談する中で、6月7日、市内「南湖公園」において職員17名を対象に、野鳥観察の指導を受けました。棚邊事務局長より、双眼鏡の構え方や、鳥の鳴き声の違い等について指導を受け、各自が普段は聞き逃す鳥の鳴き声に反応し、キビタキ、シジュウカラ等約15種類の野鳥を見つけ観察しました。戸邊支部長からは、「猛禽類は気温が上がることによって起きる上昇気流を利用して飛翔する事から、午前9時頃から最低2時間は観察が必要」とのアドバイスを頂き、「多様な生物が住む森林環境を守ってもらいたい」との激励で終了しました。



野鳥観察指導 (南湖公園) ①



野鳥観察指導 (南湖公園) ②

きのこ特集

夏に発生するきのこ

② について

ハナビラタケ (食用)

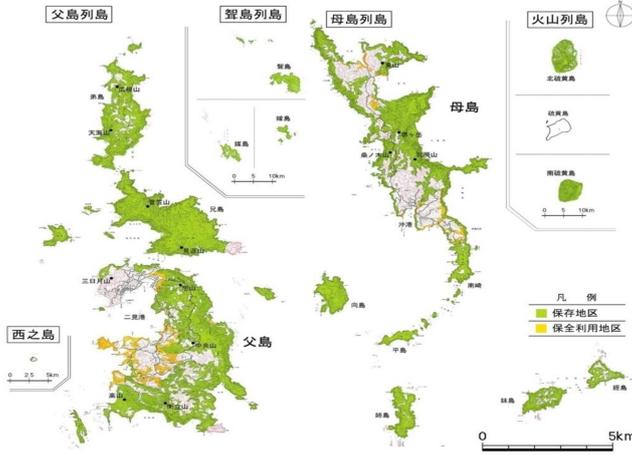
(ハナビラタケ科ハナビラタケ属)

七月中旬から九月上旬にかけて針葉樹の切株や枯木の根際などから発生します。主にカラマツからの発生が多く時に生立木の芯を枯らすことがあります。

形はその名のとおりに花びらのような形で大きいものは直径30cm位になります。色は白色またはクリーム色で、根元にある塊状の太い柄から枝別れして、個々にカサをつくります。裏はヒダではなく管孔になっています。

最近では、人工栽培もされていますが、まだ生産量が少なく、一般には、あまり知られていません。

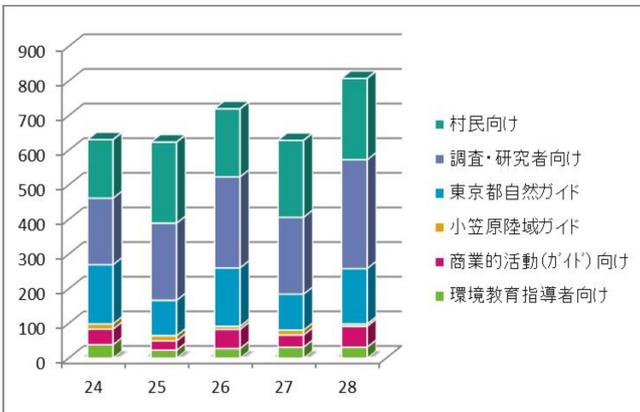




小笠原諸島森林生態系保護地域

名称	簡易講習		利用講習	
	村民のレクリエーション簡易講習	調査研究簡易講習	商業活動利用講習	環境教育活動利用講習
対象者	小笠原村民	調査・研究者等	ガイド等	環境教育者等
講習時間	45分	60分	240分	240分
受講により可能となること	・東平SA内林内歩道、石門、聳島を除く赤色指定ルートの通行(同行者10名まで)	・調査、研究等の目的での全指定ルートの通行(同行者10名まで) ・調査、研究等の目的での国有林内への入林資格(同行者10名まで、入林には別途入林申請等が必要)	・商業活動としての東平SA内林内歩道、南島、石門を除く赤色指定ルートの通行(同行者10名まで) ※南島、石門については東京都ガイド講習の受講、東平SA内林内歩道については別途SA講習の受講が必要	・環境教育活動としての東平SA内林内歩道、南島、石門を除く赤色指定ルートの通行(同行者10名まで) ※左に同じ

講習区分



講習受講状況



小笠原諸島森林生態系保護地域

小笠原諸島は過去に一度も大陸と陸続きになつたことがない海洋島で、独自の進化を遂げ、他では見られない貴重な野生動物植物が生息・生育する森林が多く残されています。このため、小笠原諸島の森林面積の53%にあたる五千五百八十haの国有林を小笠原諸島森林生態系保護地域に指定しています。森林生態系保護地域とは、国有林の保護林制度の一つで、日本を代表する原生的な森林生態系や貴重な動植物が生息・生育する森

林を、保全・管理する制度です。小笠原諸島森林生態系保護地域は、小笠原諸島世界自然遺産地域の約8割を占めており、遺産価値である地形・地質及び特異な森林生態系の保全の重要な担保となっています。小笠原諸島森林生態系保護地域では、レクリエーション等の利用による固有生態系へのインパクトを軽減し、利用と保護の調整を図るため、利用ルールを導入しています。①森林生態系保

小笠原諸島森林生態系保護地域の保全と利用

小笠原諸島森林生態系保全センター



護地域への立ち入りは原則として、指定されたルート(指定ルート)に限定、②希少な動植物の生息・生育環境の保全と利用に関する講習を受講し、国有林への入林許可書交付を受けたガイド等の同行を定めています。講習には、小笠原村民を対象とした簡易講習や調査・研究者等への簡易講習、ガイドや環境教育者等を対象とした利用講習などがあります。講習は、当センター及び東京事務所において、国有林の職員が講師となり、小笠原諸島の自然遺産価値とその価値を後世に残すための取組紹介や指定ルートの利用にあつての注意事項等を講義しています。平成28年度は百五十回開催し、八百八人の方に受講いただきました。

森林生態系保護地域の保存地区を通過する指定ルートは、専門家や地域住民等との度重なる議論の末、現在、小笠原諸島全体で23本に選別し、年間二万二千人以上の方に利用いただいています。指定ルートの入り口には、種子除去装置を設置し、森林生態系保護地域内に外来種を持ち込まない、持ち出さないための取組を行っており、講習の開催やグリーンサポートスタッフ(GSS)による使い方指導等、指定ルートの利用者に広く普及を行っています。当センターでは、この素晴らしい自然を後世に残していくため、今後とも森林生態系保護地域の適切な利用と保護の調整を図って参ります。

森づくり最前線

千葉森林管理事務所 上野森林事務所 首席森林官 高木 康子

上野森林事務所は、千葉県南部の勝浦市、鴨川市、大多喜町に位置する夷隅川・養老川流域の国有林、利根川河口部の銚子市に位置する国有林、下総台地の長柄町に位置する国有林あわせて約三千六百haを管理しています。



紫陽花の名所「麻綿原」

管内の国有林は、主としてスギ、ヒノキの人工林とカシ、シイ等の天然林で構成されています。南部の国有林には、南房総国定公園に指定されている麻綿原高原や大正時代に造成された筒森自然観察教育林があり、周辺の名所としては、アジサイで有名な天拝園や、日蓮聖人ゆかりの鯛ノ浦などがあります。北部の国有林は水郷筑波国定公園に指定されており、周辺には

世界灯台百選に選ばれている犬吠埼灯台や、日本の渚百選に選ばれた犬吠埼君ヶ浜海岸などの名所があります。首都圏からも近く、沖合いを流れる黒潮（暖流）の影響を受け、冬でもほとんど霜が降らない温暖な気候のため、年間を通じて、多くの観光客や地元の方々に親しまれています。

このように、風光明媚で気候温暖な良い場所ではありますが、観光ではなく業務となると、少し話が異なります。起伏に富んだ複雑な地形が房総丘陵独特の溪谷を創り出し、目の前に見えている作業地へ行くにも、断崖で隔てられ、大回りをしなければならぬこともしばしばで苦労しています。

市街地から近いため、ゴミの不法投棄も大きな問題です。



犬吠埼灯台と君ヶ浜国有林

軽トラ一台分のゴミを片付けて一週間も経たないうちに、同じ場所にゴミが捨てられているのを発見したときは呆然としました。



筒森自然観察教育林

房総半島南部には、特定外来生物に指定された「キョン」という、鹿に似た小動物がいます。

在来種のニホンジカと分布域が重複し、食性もニホンジカと重なっており、生態系への被害が懸念されています。キョンは鳥獣保護法で狩猟対象になつておらず、また、野生動物には珍しく一年中繁殖可能なため、爆発的（年間36%増）H26年度末で約四万七千頭）に数を増やしています。

樹皮剥ぎや、下層植生等への食害等の森林被害はまだ見られませ



特定外来生物「キョン」

んが、健全な森林を維持するためにも、個体数管理をしていく必要があると思われる。

開かれた国有林として、地域と連携を図りつつ、次世代に引き継ぐ山作りをして行きたいと考えています。



サンコウチョウ(三光鳥)
オスは約45cm、メスは約17cm。
オスは「月日星木休休木柱と鳴く。」

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1393